

日本のスマートフォン市場と新たなサービスへの期待

MCPC スマートフォン推進委員会

スマートフォンの定義と利用特性

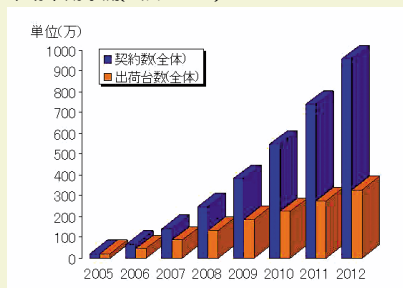
MCPCが定義するスマートフォンは「仕様が公開された汎用的なOSを搭載し、利用者が自由にアプリケーションを追加して機能拡張やカスタマイズができる携帯電話およびPHS」である。具体的には、Windows Mobile、OS X (iPhone)、Black Berry OS、Symbian、Androidを搭載したものとなる。

企業の利用用途は従業員規模に関わらず営業・渉外業務での利用が圧倒的多数。一方、欧米で多く見られる幹部社員間の連絡や社内コミュニケーションの利用は、大企業では傾向が見られるものの全体ではまだ営業・渉外業務利用の3分の1程度である。

進化する活用事例

迅速なデータ処理と携帯電話機能を組み合わせたスマートフォンの便利さを現場の“気づき”から始めた日本のスマートフォン活用は、飲食店店長、婦人服店頭スタッフ、配置業営業、印刷機器サービスマン、ITソリューション訪問営業、工事現場の作業班長と工事管理者、医薬品卸マーケティングスペシャリスト、映像の現場プロデューサーなど幅広い業種に広がり、業態もテニ

市場中期予測(出典MCPC)



スクールコーチと会員、小学校の先生と生徒など多様化した。

最近では取引先である薬局・薬店で簡単にすぐ使えて運用経費も抑えられる受発注管理を提供する医薬品卸もあり、業界全体での活性化の期待も担っている。

MCPCの市場予測

MCPCでは、日本におけるスマートフォンの実態把握と今後の市場予測を目的に、2009年3月16日に「スマートフォン市場の中期予測」を発表した。そして2008年度の国内スマートフォン市場は、13機種種の投入と、定額パケット料金の2段階定額制による実質料金の低下により、前年度の出荷台数86万台から55%増の133万台(個人102万台、企業31万台)に拡大したと推定される。

09年度は前年度同様に50%前後の成長が見込まれる。今後ブロードバンドの進展、オープン環境でのアプリケーションやサービスの増大、投資効果認知による導入企業の業種・業態の拡大が市場を牽引し、2012年度出荷台数は個人260万台、企業70万台の規模に拡大すると推定している。契約数も08年度の250万契約から2012年度には個人760万契約、企業200万契約に達する見込みである。

新たなサービス登場への期待

今後のスマートフォン市場は、高速化・マルチネットワーク化による通信環境の向上と、OSの進化による高機能化、アプリケーション数の増大により大

きく拡大すると見ている。

「App Store」「Windows Marketplace」「Android Market」「BlackBerry App World」のようなアプリケーションストアや「Mobile Me」「My Phone」などのクラウド型サービス(インターネットなどのネットワークを通じてサービスの形で必要に応じて利用する方式)の登場は、スマートフォンをよりわかりやすくして購買意欲も高めるであろう。

またこれらは、携帯電話の「コンテンツ」とは違うスマートフォンならではのオープンでカスタマイズできるアプリケーションの利用機会を加速して「アジャイル(柔軟)なコンピューティング」を実現すると考えられる。

企業の場合は、より安心して、使いやすく、スマートフォンをそれぞれの企業ごとにカスタマイズできるアプリケーション統合プラットフォームや企業内・企業外システムとの多様で相性の良い連携の実現が、新たなインテグレーションビジネスの機会を生み出すと期待される。

アイデアと技術に対する洞察力、スピードが求められるため、中小のITサービス企業やベンチャー企業にとっても大きなチャンスとなる。

アプリケーションの増大と新しいサービスの登場

アプリストア

- ・マーケットプレイス
- ・好ましいユーザ体験
- ・開発者コミュニティ

アプリケーション統合プラットフォーム

- ・安心
- ・使いやすい
- ・必要なだけ

インテグレーションビジネス

- ・アプリケーションの目利き
- ・スピード
- ・多様なシステム連携

エンタテインメント
ミニチュア
コンピュータ
コミュニケーション

さらさらオープンで柔軟なスマートフォンに

(市場予測の詳細はWebサイトまで<http://www.mcpc-jp.org/news/index.htm>)